

東京都環境影響評価制度の見直しについて

中間のまとめ（案）

平成 30 年 月

東京都環境影響評価審議会

目 次

第 1	東京都環境影響評価制度の見直しに関する諮問及び審議の経緯	3
第 2	東京都環境影響評価制度の見直しについて	3
1	本制度の手続の明確化を中心とした見直し	3
(1)	施設更新時等の手続の明確化	3
(2)	事業内容等変更時の手続要件の明確化	5
2	本制度の運用上の課題の見直し	8
(1)	事業者のより主体的な手続実施の仕組み	8
	ア 審議会への事業者の参加	
(2)	氏名等の公表に係る条例規定の見直し	8
(3)	環境影響評価図書の電子データ化とその公表のあり方	9
3	その他	9
別 表	「更新」の視点での対象事業の整理	11
参考資料 1	諮問趣旨	25
参考資料 2	第 19 期東京都環境影響評価審議会・環境影響評価制度検討特別部会 委員名簿	27
参考資料 3	審議の経過	29

第1 東京都環境影響評価制度の見直しに関する諮問及び審議の経緯

環境影響評価制度（以下「本制度」という。）は、事業者が大規模な開発事業などを実施する際に、あらかじめ、その事業が環境に与える影響を予測・評価し、その内容について、住民や関係自治体などの意見を聴くとともに専門的立場からその内容を審査することなどにより、事業実施による環境への影響をできる限り少なくするための一連の手続の仕組みである。

都では、環境影響評価法の成立に先駆けて、東京都環境影響評価条例（以下「条例」という。）を昭和55年に制定した。翌昭和56年の施行以来、これまでに350件を超える案件に適用され、大規模事業が環境に与える影響の低減に大きな成果を上げてきた。

この間、平成14年には、国内初の計画段階環境影響評価制度導入に係る条例改正を行うなど、東京の環境保全を図るため先進的な取組を行ってきた。

現在の都における本制度を取り巻く状況を見ると、本制度の創設から37年が経過し、高度成長期以降に整備し、今後、更新期を迎える施設等の増加が見込まれるなど、変化が生じている。これまで、条例に規定する対象事業について施設の更新があった場合、新たに施設を設置する際と同程度の環境への影響を及ぼすおそれもあることから、条例の新設等の規定を適用して本制度を運用してきた。しかしながら、本制度の手続は事業者の一定の負担を伴うものであるため、施設の更新の要件を明確化するなど、より適切で分かりやすいものに見直すことが必要である。

このような背景から、当審議会は、昨年12月に東京都知事から「東京都環境影響評価制度の見直しについて」諮問を受け、以来、環境影響評価制度検討特別部会を設置し、本制度の手続の明確化を中心とした見直しについて専門的見地から検討を行ってきた。

これまでの議論をとりまとめ、「中間のまとめ」として報告する。

第2 東京都環境影響評価制度の見直しについて

1 本制度の手続の明確化を中心とした見直し

(1) 施設更新時等の手続の明確化

【現状と課題】

施設の更新時においては、次の理由から、環境影響評価手続を行う必要がある。

- ① 施設の更新は、新設と同程度の環境への影響を及ぼすおそれがあり、解体工事の影響も含めれば、新設以上の環境への影響を及ぼすおそれもあること。
- ② 施設は一度設置されると長期にわたり使用され、設置による環境への影響は将来

にわたって継続することになる。そのため、新設時と同様に、更新時も環境への影響をできる限り少ないものとする必要があること。

- ③ 制度創設時になかった手続の導入や環境影響評価項目の追加など、本制度も見直されてきた。それに合わせた適正な評価手続を更新事業に対しても行う必要があること。

これまでは、条例第2条で定義する対象事業及び個別計画について、その内容及び規模を定める東京都環境影響評価条例施行規則（以下「施行規則」という。）に、施設の新設、増設等の規定はあるが更新についての規定がないため、施設の新設等の規定を適用して手続を実施してきた。

今後、施設の更新の増加が見込まれることから、より適正かつ円滑に環境影響評価手続の運用を図るため、施設の更新が本制度の対象となることを明確化する必要がある。

【今後の方向性】

施設の更新については、次のとおり明確化することが適当である。

ア 更新の定義を新たに定める。

条例及び施行規則には、更新についての規定がないことから、まず更新の定義を置くことが適当である。

規定に当たっては、「更新とは、既存の施設（建築物、工作物その他の施設をいう。以下同じ。）と同一敷地において、既存の施設の全部又は一部の除却を、当該既存の施設と同一の用に供する施設の設置と併せて行う行為をいう。ただし、補修工事等施設の保全のために行うものその他の知事が定めるものを除く。」など分かりやすいものとするのが適当である。

なお、「既存の施設と同一の用に供する施設」とは、例えば、工場等の敷地内の施設の更新は、個別の施設の用途にかかわらず更新に含まれるものとするよう、対象事業に係る施設として同一であることが分かるように規定すべきである。

また、施設によっては更新により設置する施設の敷地が既存の施設の敷地に収まらない場合があることに留意して規定すべきである。

イ 更新の要件を対象事業の種類ごとに新たに定める。

対象事業ごとの考え方の詳細は、別表「更新」の視点での対象事業の整理」に示す。

更新の規模要件については、更新は、既存施設の解体工事を除けば、新設等と同じ形態の行為であることから、これまでの考え方と同様、新設等の規模要件と同じ規模で定めることが適当である。

一方、道路並びに鉄道、軌道及びモノレール（以下「鉄道等」という。）について

は、現行では、道路の改築や鉄道等の改良に相当する更新を対象事業とする規定がないが、環境への影響を考慮すると、高架、橋梁等の道路又は鉄道等について、橋脚、桁等の除却を伴う更新をする場合、対象事業とすることが適当である。また、その規模要件については、道路の改築や鉄道等の改良に相当する行為であることから、これらの規模要件と同じ規模で定めることが適当である。

なお、対象事業のうち、更新が想定できないもの、現在都内に該当する施設がないもの及び個別施設の更新が対象になり得ないものについては要件を定める必要はない(これに該当する対象事業は、別表の更新欄に更新の対象外とする理由を記載)。

ただし、現在都内に該当する施設がない対象事業について、今後、該当する施設が存在することになった場合には、新設等の規定に準じて、更新の要件を定めることが適当である。

ウ 更新以外の要件についても併せて必要な見直しを行う。

道路及び鉄道等は、それぞれ改築、改良の場合の規模要件を、事業段階環境影響評価では長さ1 km以上、計画段階環境影響評価では長さ2 km以上と定めている。同様の線的開発事業でありながら、鉄道等の改良には、本線路の増設のほか、地下移設、高架移設その他の移設が含まれているのに対し、道路の改築には、車線数の増加のみで、移設は含まれていない。

更新と同様に環境への影響を及ぼすおそれがある道路の地下移設、高架移設等についても、鉄道等と同様に、改築の定義に含めて規定することが適当である。

また、バイパス道路について、環境影響評価法施行令が改築の定義に含めていることにならない、条例においても道路の改築に定義することが適当である。

さらに、線的開発事業である送電線路についても、現在、移設についての規定がないため、更新と併せて鉄塔等の移設を伴うものについても規定することが適当である。

(2) 事業内容等変更時の手続要件の明確化

【現状と課題】

条例第62条、第37条では、対象事業又は対象計画の案の目的又は内容(以下「事業内容等」をいう。)を変更する場合の知事への届出義務を定めている。この例外として、軽微な変更その他規則で定めるものは届出を要しないとしているが、軽微な変更その他規則で定めるものについての具体的な定めがない。

しかしながら、変更届の提出は、事業者にとって一定の負担を伴うため、届出を不要とする要件を明確化することが必要である。

【今後の方向性】

ア 事業内容等の変更

変更届は、事業内容等が変更となった場合に、都が変更内容を正確に把握し、環境に著しい影響を及ぼすおそれがあるときは手続の再実施を求めるなど、適正な手続の実施を行うために欠かせない。また、変更内容を知事が公表し、都民に対し周知を図ることとしている。

具体的な要件の設定に当たっては、こうした変更届の意義を踏まえつつ設定する必要がある。

7 ページ「事業内容等の変更時の手続について」の図の中に、変更届が不要となる場合の要件として、①から④までの考え方を示している。

「①基本的な諸元以外の変更又は当該基本的な諸元の増加が10%未満である変更」又は「②変更後の対象事業について変更前の関係区市町村長以外の区市町村長が含まれていない変更」に該当しない場合は、環境影響評価法令では手続の再実施を求めていることになり、本制度による変更の届出の後には東京都環境影響評価審議会（以下「審議会」という。）への意見聴取を経て、手続の再実施を求めることが適当である。

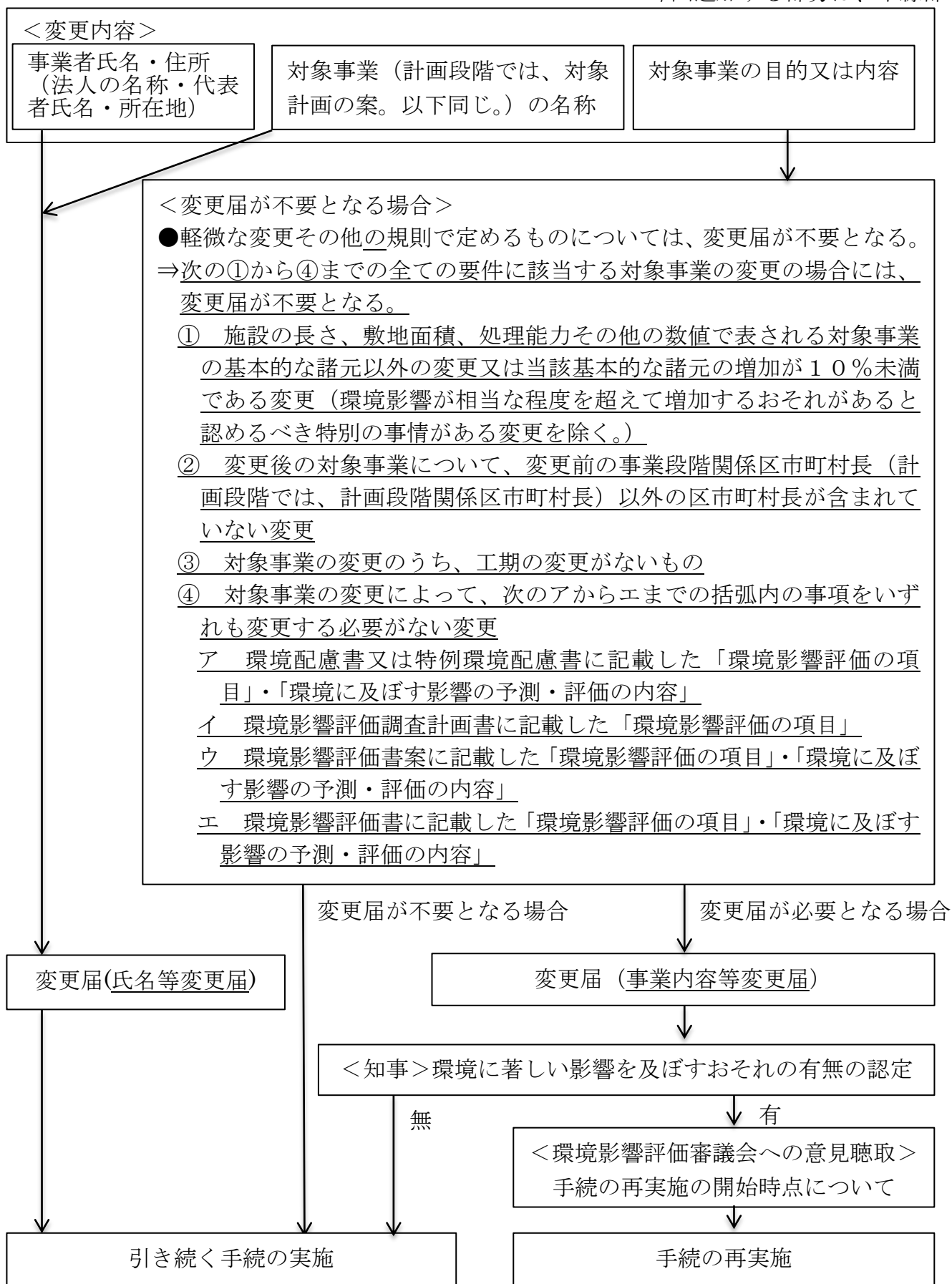
イ 氏名等の変更

条例第62条、第37条は、事業内容等の変更だけでなく、事業者の氏名若しくは住所又は対象事業の名称（以下「氏名等」という。）の変更があった場合、いずれも特段の区別なく同一の様式で変更の届出を提出することになっている。

氏名等の変更は、環境影響評価手続の再実施に関わらないため、事業内容等の変更届とは別の様式により届出を求め、そのまま引き続く手続を実施するように運用することが適当である。

事業内容等の変更時の手続について

今回追加する部分は、下線部



2 本制度の運用上の課題の見直し

(1) 事業者のより主体的な手続実施の仕組み

ア 審議会への事業者の参加

【現状と課題】

審議会は、環境影響評価図書（以下「図書」という。）に係る審査意見書の作成について、知事の諮問に応じ答申を行う権限を有している。

他の自治体の例では、事業者が、審議会において事業の内容等を説明しているが、都の場合、条例や施行規則に審議会への事業者の出席等に係る規定がなく、審議会委員への説明を全て都が担っている。

本制度は、事業者が主体的に環境の保全について適正な配慮を行う手続の仕組みであり、この趣旨からすれば、事業者が事業の内容等についての説明責任を果たすべきである。

【今後の方向性】

審議会は、事業者に対して審議会への出席、審議会において説明を求めることができることを明文化すべきである。

なお、この規定は、事業者には一定の負担を伴うことや本制度の基本的な事項であることから、条例上に設けることが適当である。

(2) 氏名等の公表に係る条例規定の見直し

【現状と課題】

条例第91条は、事業者が条例に定める手続を行わなかったときに、その氏名及び住所やその事実を公表することを定めている。

この条文は、手続に従わない事実があれば、直ちに氏名等を公表するという直罰的な定め方であるが、他の自治体の例では、氏名等の公表の前に指導や勧告を行い、それでも是正されないときは公表する措置を講じることが一般的である。

都は、これまでも手続の確実な遂行を担保するという趣旨から、より早期に是正を図るために指導や勧告を行うものと解してきたが、現行の規定はこの考え方に即していない。

【今後の方向性】

違反があると認められるときは、氏名等の公表の前に、必要な措置を講じるよう勧告する規定を設けることが適当である。

(3) 環境影響評価図書の電子データ化とその公表のあり方

【現状と課題】

現在公表している図書には、環境配慮書、特例環境配慮書、環境影響評価調査計画書、環境影響評価書案、評価書案に係る見解書、環境影響評価書等がある。

都民等の理解や信頼を得て手続の適正な履行を確保するため、機密情報の取扱いに留意しながら、都は条例に基づき図書を縦覧期間中に縦覧に供するほか、縦覧期間終了後もウェブサイト上で図書の概要の公表や紙媒体での図書の貸出を行っている。

しかしながら、公表の方法は紙媒体による図書の縦覧が中心であるため、図書の全文を閲覧する場合は平日に縦覧場所に赴く必要がある。さらに、縦覧期間中は都の本庁舎の窓口だけでなく、都の事業所の窓口や関係する区市町村の窓口も含め複数の窓口で縦覧に供しているが、縦覧期間終了後は、都の本庁舎の窓口でのみ閲覧に供するなど、利用者への制約が大きい。

【今後の方向性】

手続が適正かつ円滑に履行されるよう努める責務を持つ都は、都民の利便性を考慮し、事業者の同意を得るなど著作権にも配慮した上で、ウェブサイトにも全文を掲載するなど、より積極的に図書を公表すべきである。

また、図書は、制度や事業に対する都民等の理解の促進や予測・評価技術の向上などに資するものであることから、縦覧期間中のみならず縦覧期間終了後も、公表する図書の種類・公表期間について必要性を考慮した上で、ウェブサイトに掲載することが望ましい。

3 その他

今回検討した事項以外にも、将来的に制度の改善に向けて検討すべき事項があると考えられることから、答申に向けた審議等も踏まえ、検討を進めていく必要がある。

「更新」の視点での対象事業の整理

別表

凡例

- 1 今回追加する部分は、下線部
- 2 「事」は事業段階アセスメント、「計」は計画段階アセスメントの要件

1 線の開発事業

事業	新設等	増設等	更新等
道路の新設又は改築	<p>【新設】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高速自動車国道（道路法第3条第1号の高速自動車国道。以下同じ。）及び自動車専用道路（道路法第48条の2第1項又は第2項の規定により指定しようとする道路。以下同じ。）：「事」全て ・その他の道路（道路交通法第2条第1項第1号の道路。高速自動車国道及び自動車専用道路を除く。以下同じ。）（4車線以上）：「事」<u>1 km以上※3</u> / 「計」 2 km以上 	<p>【改築】（車線増等）※1</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高速自動車国道及び自動車専用道路：「事」<u>1 km以上※3</u> ・その他の道路（4車線以上※4）：「事」 1 km以上※3 / 「計」 2 km以上 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>※1 「改築」は、車線（付加追越車線、登坂車線、屈折車線、変速車線を除く。）の数が増加すること又は新たに道路（<u>その他の道路については、4車線以上であるものを</u>）を設けることに限る。</p> </div>	<p>【改築】（更新・移設）※2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高速自動車国道及び自動車専用道路：「事」<u>1 km以上※3</u> ・その他の道路（4車線以上※4）：「事」 <u>1 km以上※3</u> / 「計」 2 km以上 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>※2 「改築」は、<u>地下移設、高架移設その他の移設（軽微な移設として知事が定めるものを除く。）又は高架、橋梁等の道路の更新（橋脚、桁等の除却を伴う場合に限る。）</u>に限る。</p> </div>
<p>※3 新設又は改築する区間の長さが1 km未満でも対象事業の一部又は延長として実施するものは、<u>軽微なものとして知事が定めるものを除き、対象とする。</u></p> <p>※4 改築については、改築の結果4車線以上になるものを含む。</p>			

事業	新設等	増設等	更新等
鉄道、軌道 又はモノ レールの 建設又は 改良	【建設】 ・鉄道（全国新幹線鉄道整備法第2条の新幹線鉄道、鉄道事業法第2条第1項の鉄道事業の用に供する鉄道。以下同じ。）、専用鉄道（鉄道事業法第2条第6項の専用鉄道。以下同じ。）、軌道（軌道法の適用を受ける軌道。以下同じ。）又はモノレール：「事」全て／「計」新幹線を除く全て	【改良】（線路増）※1 ・鉄道、専用鉄道、軌道又はモノレール：「事」1 km以上※3／「計」2 km以上（新幹線に係る改良を除く。） <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> ※1 「改良」は、本線路の増設（一の停車場に係るものを除く。）に限る。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> ※3 改良する区間の長さが1 km未満でも対象事業の一部又は延長として実施するものは、軽微なものとして知事が定めるものを除き、対象とする。 </div>	【改良】（更新・移設）※2 ・鉄道、専用鉄道、軌道又はモノレール：「事」 <u>1 km以上※3／「計」2 km以上（新幹線に係る改良を除く。）</u> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> ※2 「改良」は、本線路の地下移設、高架移設その他の移設（軽微な移設として知事が定めるものを除く。）又は高架、橋梁等の本線路の更新（橋脚、桁等の除却を伴う場合に限る。）に限る。 </div>
送電線路 の設置又 は変更	【新設設置】 ・送電線路（電気事業法施行規則第1条第2項第2号の送電線路。以下同じ。）（架空線のものに限る。）：「事」電圧17万V以上かつ長さ1 km以上	【延長・昇圧】 ・送電線路（架空線のものに限る。）：「事」電圧17万V以上かつ延長する区間の長さ1 km以上 ・送電線路（架空線のものに限る。）：「事」電圧17万V以上に変更（昇圧）かつ変更する区間の長さ1 km以上	【更新・移設】 ・送電線路（架空線のものに限る。）：「事」 <u>電圧17万V以上かつ更新（鉄塔等の除却を伴う場合に限る。）を行う区間の長さ1 km以上</u> ・送電線路（架空線のものに限る。）：「事」 <u>電圧17万V以上かつ移設（鉄塔等の移設を伴う場合に限る。）を行う区間の長さ1 km以上</u>

2 規模要件に敷地面積等が含まれる事業

事業	新設等	増設等	更新等
工場の設置又は変更	<p>【新設設置】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・製造業で公害型の工場（※）：「事」敷地面積 9000 m²以上又は建築面積の合計 3000 m²以上／「計」敷地面積 18000 m²以上又は建築面積の合計 6000 m²以上 	<p>【増設】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・製造業で公害型の工場（※）：「事」増加する敷地面積 4500 m²以上かつ増設後敷地面積 9000 m²以上又は増加する建築面積 1500 m²以上かつ増設後建築面積の合計 3000 m²以上／「計」増加する敷地面積 9000 m²以上かつ増設後敷地面積 18000 m²以上又は増加する建築面積 3000 m²以上かつ増設後建築面積の合計 6000 m²以上 	<p>【更新】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・製造業で公害型の工場（※）：「事」更新（既存の施設の全部を除却する場合に限る。）により設置する工場の敷地面積 9000 m²以上又は更新により設置する建築物の建築面積の合計 3000 m²以上／「計」更新（既存の施設の全部を除却する場合に限る。）により設置する工場の敷地面積 18000 m²以上又は更新により設置する建築物の建築面積の合計 6000 m²以上
<p>（※）「製造業で公害型の工場」：製造業（物品の加工修理業を含む。）に係る工場又は事業場で、大気汚染防止法第 2 条第 2 項のばい煙発生施設、同条第 9 項の一般粉じん発生施設及び同条第 10 項の特定粉じん発生施設、水質汚濁防止法第 2 条第 2 項の特定施設、騒音規制法第 2 条第 1 項の特定施設又は振動規制法第 2 条第 1 項の特定施設を有するもの</p>			
終末処理場の設置又は変更	<p>【新設設置】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・終末処理場（下水道法第 2 条第 6 号の終末処理場。以下同じ。）：「事」敷地面積 5ha 以上又は汚泥処理能力（固形物量）の合計 100 t/日以上／「計」敷地面積 10ha 以上又は汚泥処理能力（固形物量）の合計 200 t/日以上 	<p>【増設】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・終末処理場：「事」増加する敷地面積 2.5ha 以上かつ増設後敷地面積 5ha 以上又は増加する汚泥処理能力（固形物量）の合計 50 t/日以上かつ増設後汚泥処理能力（固形物量）の合計 100 t/日以上／「計」増加する敷地面積 5ha 以上かつ増設後敷地面積 10ha 以上又は増加する汚泥処理能力（固形物量）の合計 100 t/日以上かつ増設後汚泥処理能力（固形物量）の合計 200 t/日以上 	<p>【更新】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・終末処理場：「事」更新（既存の施設の全部を除却する場合に限る。）により設置する終末処理場の敷地面積若しくは更新により設置する施設の施工区域面積の合計 5ha 以上又は更新により設置する施設の汚泥処理能力（固形物量）の合計 100 t/日以上／「計」更新（既存の施設の全部を除却する場合に限る。）により設置する終末処理場の敷地面積若しくは更新により設置する施設の施工区域面積の合計 10ha 以上又は更新により設置する施設の汚泥処理能力（固形物量）の合計 200 t/日以上

事業	新設等	増設等	更新等
産業廃棄物の中間処理施設の設置又は変更	<p>【新設設置】</p> <ul style="list-style-type: none"> 産業廃棄物の中間処理施設（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第7条第1号から第13号の2までの施設。以下同じ。）：「事」敷地面積 9000 m²以上又は建築面積 3000 m²以上 	<p>【増設】</p> <ul style="list-style-type: none"> 産業廃棄物の中間処理施設：「事」増加する敷地面積 4500 m²以上かつ増設後敷地面積 9000 m²以上又は増加する建築面積 1500 m²以上かつ増設後建築面積 3000 m²以上 	<p>【更新】</p> <ul style="list-style-type: none"> 産業廃棄物の中間処理施設：「事」更新（既存の施設の全部を除却する場合に限る。）により設置する産業廃棄物の中間処理施設の敷地面積 9000 m²以上又は更新により設置する建築物の建築面積 3000 m²以上
卸売市場の設置又は変更	<p>【新設設置】</p> <ul style="list-style-type: none"> 卸売市場（卸売市場法第2条第2項の卸売市場。以下同じ。）：「事」敷地面積 10ha 以上／「計」敷地面積 20ha 以上 	<p>【増設】</p> <ul style="list-style-type: none"> 卸売市場：「事」増加する敷地面積 5ha 以上かつ増設後敷地面積 10ha 以上／「計」増加する敷地面積 10ha 以上かつ増設後敷地面積 20ha 以上 	<p>【更新】</p> <ul style="list-style-type: none"> 卸売市場：「事」更新（既存の施設の全部を除却する場合に限る。）により設置する卸売市場の敷地面積又は更新により設置する施設の施工区域面積の合計 10ha 以上／「計」更新（既存の施設の全部を除却する場合に限る。）により設置する卸売市場の敷地面積又は更新により設置する施設の施工区域面積の合計 20ha 以上
都市計画法第4条第11項の第二種特定工作物の設置又は変更	<p>【新設設置】</p> <ul style="list-style-type: none"> 第二種特定工作物：「事」事業区域面積 40ha 以上（樹林地等を 15ha 以上含む場合は 20ha 以上）／「計」事業区域面積 80ha 以上（樹林地等を 30ha 以上含む場合は 40ha 以上） 	<p>【増設】</p> <ul style="list-style-type: none"> 第二種特定工作物：「事」増加する事業区域面積 20ha 以上かつ増設後事業区域面積 40ha 以上（樹林地等を 7.5ha 以上含む場合は増加する事業区域面積 10ha 以上）／「計」増加する事業区域面積 40ha 以上かつ増設後事業区域面積 80ha 以上（樹林地等を 15ha 以上含む場合は増加する事業区域面積 20ha 以上） 	<p>【更新】</p> <ul style="list-style-type: none"> 第二種特定工作物：「事」更新により設置する第二種特定工作物の事業区域面積 40ha 以上（樹林地等を 15ha 以上含む場合は 20ha 以上）／「計」更新により設置する第二種特定工作物の事業区域面積 80ha 以上（樹林地等を 30ha 以上含む場合は更新により設置する第二種特定工作物の事業区域面積 40ha 以上）

注 更新の結果、増設部分（既存の施設の規模を超える部分をいう。）ができた場合において、増設部分の規模が増設の規模要件を満たさないときは、更新部分（既存の施設の規模以下の部分をいう。）の規模に増設部分の規模を合算した規模により、更新の規模要件の該当を判断する。

(更新の対象外とする理由)

3 規模要件を施設の能力で定めている事業

事業	新設等	増設等	更新等
発電所の設置又は変更	<p>【新設設置】</p> <ul style="list-style-type: none"> 火力発電所：「事」出力合計 11.25 万 kW 以上 水力発電所：「事」出力合計 2.25 万 kW 以上 地熱発電所：「事」出力合計 7500kW 以上 原子力発電所：「事」全て 	<p>【増設】</p> <ul style="list-style-type: none"> 火力発電所：「事」増加する出力合計 5.625 万 kW 以上かつ増設後出力 11.25 万 kW 以上 水力発電所：「事」増加する出力合計 1.125 万 kW 以上かつ増設後出力 2.25 万 kW 以上 地熱発電所：「事」増加する出力合計 3750kW 以上かつ増設後出力 7500kW 以上 原子力発電所：「事」全て 	<p>【更新】</p> <ul style="list-style-type: none"> 火力発電所：「事」更新により設置する火力発電所の出力合計 <u>11.25 万 kW 以上</u> 水力発電所：「事」更新により設置する水力発電所の出力合計 <u>2.25 万 kW 以上</u> 地熱発電所：「事」更新により設置する地熱発電所の出力合計 <u>7500kW 以上</u> <p>原子力発電所 現在、都内に該当する施設がない。</p>
<p>(※)「発電所」：火力、水力、地熱又は原子力による発電のため必要なダム、水路、貯水池、建物、機械、器具その他の工作物の総体</p>			
石油貯蔵所の設置又は変更	<p>【新設設置】</p> <ul style="list-style-type: none"> 石油貯蔵所（危険物の規制に関する政令第2条第2号の屋外タンク貯蔵所（原油、揮発油、灯油、軽油又は重油を貯蔵するものに限る。以下同じ。）：「事」貯蔵能力合計 3 万 kL 以上 	<p>【増設】</p> <ul style="list-style-type: none"> 石油貯蔵所：「事」増加する貯蔵能力 1.5 万 kL 以上かつ増設後の貯蔵能力合計 3 万 kL 以上 	<p>【更新】</p> <ul style="list-style-type: none"> 石油貯蔵所：「事」更新により設置する石油貯蔵所の貯蔵能力合計 <u>3 万 kL 以上</u>
ごみ処理施設の設置又は変更	<p>【新設設置】</p> <ul style="list-style-type: none"> ごみ処理施設 (※)：「事」ごみ処理施設の種類ごとの処理能力合計 200 t/日以上 	<p>【増設】</p> <ul style="list-style-type: none"> ごみ処理施設 (※)：「事」増加するごみ処理施設の種類ごとの処理能力合計 100 t/日以上かつ増設後の処理能力合計 200 t/日以上 	<p>【更新】</p> <ul style="list-style-type: none"> ごみ処理施設 (※)：「事」更新により設置するごみ処理施設の種類ごとの処理能力合計 <u>200 t/日以上</u>
<p>(※)「ごみ処理施設」：廃棄物の処理及び清掃に関する法律第8条第1項の一般廃棄物処理施設で、廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行規則第4条第1項第7号の焼却施設、同項第9号のばいじん又は焼却灰の処理施設、同項第10号の高速堆肥化処理施設、同項第11号の破碎施設、同項第13号の選別施設、同項第14号の固形燃料化施設</p>			

事業	新設等	増設等	更新等
し尿処理施設の設置又は変更	【新設設置】 ・し尿処理施設（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第8条第1項のし尿処理施設。以下同じ。）：「事」処理能力合計 100kL/日以上	【増設】 ・し尿処理施設：「事」増加する処理能力合計 50kL/日以上かつ増設後の処理能力合計 100kL/日以上	【更新】 <u>・し尿処理施設：「事」更新により設置するし尿処理施設の処理能力合計 100kL/日以上</u>
自動車駐車場の設置又は変更	【新設設置】 ・自動車駐車場（道路の路面外に設置する自動車の駐車のための施設。以下同じ。）（臨時に設置するものを除く。）：「事」同時駐車能力 1000 台以上（住宅の居住者用の自動車の台数を除く。）／「計」同時駐車能力 2000 台以上（住宅の居住者用の自動車の台数を除く。）	【増設】 ・自動車駐車場（臨時に設置するものを除く。）：「事」増加する同時駐車能力 500 台以上かつ増設後同時駐車能力 1000 台以上（住宅の居住者用の自動車の台数を除く。）／「計」増加する同時駐車能力 1000 台以上かつ増設後同時駐車能力 2000 台以上（住宅の居住者用の自動車の台数を除く。）	【更新】 <u>・自動車駐車場（臨時に設置するものを除く。）：「事」更新により設置する自動車駐車場の同時駐車能力 1000 台以上（住宅の居住者用の自動車の台数を除く。）／「計」更新により設置する自動車駐車場の同時駐車能力 2000 台以上（住宅の居住者用の自動車の台数を除く。）</u>

注 更新の結果、増設部分（既存の施設の規模を超える部分をいう。）ができた場合において、増設部分の規模が増設の規模要件を満たさないときは、更新部分（既存の施設の規模以下の部分をいう。）の規模に増設部分の規模を合算した規模により、更新の規模要件の該当を判断する。

4 規模要件をその他の方法で定めている事業

事業	新設等	増設等	更新等
飛行場の設置又は変更	<p>【新設設置】</p> <ul style="list-style-type: none"> 陸上空港等（航空法施行規則第75条第1項の陸上空港等又は自衛隊が設置する陸上空港等。以下同じ。）又は陸上ヘリポート（航空法施行規則第75条第1項の陸上ヘリポート又は自衛隊が設置する陸上ヘリポート。以下同じ。）：「事」全て／「計」全て 	<p>【滑走路の新設等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 滑走路の新設又は位置の変更：「事」全て／「計」全て 滑走路の延長：「事」等級（※）の変更を伴うもの又はA級着陸帯若しくはa級滑走路の場合については陸上空港等は500m以上、陸上ヘリポートは50m以上の延長 	<p>【更新】</p> <ul style="list-style-type: none"> 陸上空港等又は陸上ヘリポート（既存の施設の全部を除却する場合に限る。）：「事」全て／「計」全て <p>（※）「等級」：航空法施行規則第75条第2項の着陸帯の等級又は飛行場及び航空保安施設の設置及び管理の基準に関する訓令別表第1に掲げる滑走路の長さによる等級</p>
ふ頭の設置新設	<p>【新設】</p> <ul style="list-style-type: none"> ふ頭（※）：「事」係船岸の水深12m以上かつ長さ240m以上／「計」係船岸の水深15m以上かつ長さ480m以上 <p>（※）「ふ頭」：船舶を係留するための岸壁、その前面の泊地、船客の乗降又は貨物の荷さばきを行うための固定的な施設及びこれらの施設の機能を確保するために必要な護岸、臨港交通施設その他の施設の総体</p>		<p>【更新】</p> <ul style="list-style-type: none"> ふ頭（※）：「事」更新により設置するふ頭（船舶を係留するための岸壁に限る。）の係船岸の水深12m以上かつ長さ240m以上／「計」更新により設置するふ頭（船舶を係留するための岸壁に限る。）の係船岸の水深15m以上かつ長さ480m以上
住宅団地の設置新設	<p>【新設】</p> <ul style="list-style-type: none"> 住宅団地（※）：「事」住宅戸数1500戸以上／「計」住宅戸数3000戸以上 <p>（※）「住宅団地」：一団の土地に集団的に建設される住宅及びその附帯施設の総体</p>		<p>【更新】</p> <ul style="list-style-type: none"> 住宅団地（※）：「事」更新により設置する住宅戸数1500戸以上／「計」更新により設置する住宅戸数3000戸以上
高層建築物の設置新設	<p>【新築】</p> <ul style="list-style-type: none"> 建築物（建築基準法第2条第1号の建築物。以下同じ。）：「事」高さ100m超（階段室、昇降機塔等を含む。）かつ延べ面積10万㎡超（駐車場面積を含む。）※ <p>※ 特定の地域については、高さ180m超（階段室、昇降機塔等を含む。）かつ延べ面積15万㎡超（駐車場面積を含む。）</p>		<p>【更新】</p> <ul style="list-style-type: none"> 建築物：「事」更新により設置する高層建築物の高さ100m超（階段室、昇降機塔等を含む。）かつ延べ面積10万㎡超（駐車場面積を含む。）※

(更新の対象外とする理由)

5 施設更新の対象外の事業

事業	新設等	増設等	更新等
河川法第3条第1項の河川に関するダムの新築	【新築】 ・ダム（河川の流水を貯留し、又は取水するために設置するダムに限る。）：「事」高さ15m以上かつ湛水面積75ha以上		更新は、想定できない。
河川法第3条第1項の河川に関する堰の新築又は改築	【新築】 ・堰：「事」湛水面積75ha以上	【改築】 ・堰：「事」増加する湛水面積37.5ha以上かつ改築後湛水面積75ha以上	現在、都内に該当する施設がない。（湛水面積が判明している施設がない。）
河川法第3条第1項の河川に関する湖沼水位調節施設の新築	【新築】 ・湖沼水位調節施設：「事」施設が設置される土地の面積及び施設操作により露出する水底の最大水平投影面積の合計75ha以上		現在、都内に該当する施設がない。
河川法第3条第1項の河川に関する放水路の新築	【新築】 ・放水路（河川を分岐して新たな河川を開削し、流水を直接海や水系の異なる他の河川に放流する水路）：「事」河川区域の幅30m以上かつ長さ1km以上又は75ha以上の土地の形状を変更するもの／「計」河川区域の幅30m以上かつ長さ2km以上		現在、都内に該当する施設がない。

事業	新設等	増設等	更新等
ガス製造所の設置又は変更	【設置】 ・ガス製造所（ガス事業法施行規則別表第1に掲げる製造所。以下同じ。）：「事」製造能力合計150万N m ³ /日以上	【増設】 ・ガス製造所：「事」増加する製造能力合計75万N m ³ /日以上かつ増設後製造能力合計150万N m ³ /日以上	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> 現在、都内に該当する施設がない。 </div>
石油パイプラインの設置又は変更	【設置】 ・石油パイプライン（石油パイプライン事業法第2条第2項の石油パイプライン。以下同じ。）の導管（地下に埋設する部分を除く。）：「事」15km超	【延長】 ・石油パイプラインの導管（地下に埋設する部分を除く。）：「事」延長する部分の長さ7.5km以上かつ延長後の長さ15km以上	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> 現在、都内に該当する施設がない。 </div>
一般廃棄物又は産業廃棄物の陸上最終処分場の設置又は変更	【設置】 ・陸上最終処分場（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第8条第1項又は廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第7条第14号の最終処分場（陸上において処理するものに限る。）。以下同じ。）：「事」埋立面積1ha以上又は埋立容量5万m ³ 以上（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第2条の4第5号の特定有害産業廃棄物については埋立面積1000m ² 以上）	【増設】 ・陸上最終処分場：「事」増加する埋立面積5000m ² 以上かつ増設後埋立面積1ha以上又は増加する埋立容量2.5万m ³ 以上かつ増設後埋立容量5万m ³ 以上（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第2条の4第5号の特定有害産業廃棄物については増加する埋立面積500m ² 以上かつ増設後埋立面積1000m ² 以上）	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> 更新は、想定できない。 </div>
埋立て又は干拓	【埋立て又は干拓】 ・公有水面埋立法第1条第1項の埋立て又は同条第2項の干拓：「事」埋立て又は干拓面積15ha以上／「計」埋立て又は干拓面積30ha以上		<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> 更新は、想定できない。 </div>

事業	新設等	増設等	更新等
流通業務市街地の整備に関する法律第2条第2項の流通業務団地造成事業	【流通業務団地造成事業の施行】 ・「事」全て／「計」全て		<div style="border: 1px dashed black; border-radius: 15px; padding: 10px;"> <p>面的開発全体を対象としており、個別施設の更新を対象としていない。</p> </div>
土地区画整理法第2条第1項の土地区画整理事業	【土地区画整理事業の施行】 ・「事」事業区域面積 40ha 以上（樹林地等を 15ha 以上含む場合は 20ha 以上）／「計」事業区域面積 80ha 以上（樹林地等を 30ha 以上含む場合は 40ha 以上）		
新住宅市街地開発法第2条第1項の新住宅市街地開発事業	【新住宅市街地開発事業の施行】 ・「事」施行区域面積 40ha 以上		
首都圏の近郊整備地帯及び都市開発区域の整備に関する法律第2条第5項の工業団地造成事業	【工業団地造成事業の施行】 ・「事」全て／「計」全て		

事業	新設等	増設等	更新等
都市再開発法第2条第1号の市街地再開発事業	【市街地再開発事業の施行】 ・「事」施行区域面積 20ha 以上／「計」施行区域面積 40ha 以上		<div style="border: 1px dashed black; border-radius: 15px; padding: 10px;"> <p>面的開発全体を対象としており、個別施設の更新を対象としていない。</p> </div>
新都市基盤整備法第2条第1項の新都市基盤整備事業	【新都市基盤整備事業の施行】 ・「事」全て／「計」全て		
大都市地域における住宅及び住宅地の供給の促進に関する特別措置法第2条第4号の住宅街区整備事業	【住宅街区整備事業の施行】 ・「事」施行区域面積 20ha 以上／「計」施行区域面積 40ha 以上		
建築物の建築の用に供する目的で行う土地の造成	【土地の造成】 ・「事」事業区域面積 40ha 以上（樹林地等を 15ha 以上含む場合は 20ha 以上）／「計」事業区域面積 80ha 以上（樹林地等を 30ha 以上含む場合は 40ha 以上）		<div style="border: 1px dashed black; border-radius: 10px; padding: 5px;"> <p>更新は、想定できない。</p> </div>
土石の採取又は鉱物の掘採	【土、砂利（砂及び玉石を含む。）、採石法第2条の岩石の採取（洗浄を含む。）、鉱業法第3条の鉱物の掘採】 ・「事」施行区域面積（工区を分割する場合は全体の区域の面積） 10ha 以上		<div style="border: 1px dashed black; border-radius: 10px; padding: 5px;"> <p>更新は、想定できない。</p> </div>

事業	新設等	増設等	更新等
環境に著しい影響を及ぼすおそれのある事業で規則で定めるもの			規則の定めがない。

諮問第 480 号（東京都環境影響評価制度の見直し） の諮問趣旨について

1 諮問理由

- ・東京都環境影響評価条例（以下「条例」という。）に規定する対象事業について施設の更新があった場合、新たに施設を設置する際と同程度の環境への影響を及ぼすおそれもあることから、これまでは、条例の新設等の規定を適用して、東京都環境影響評価制度（以下「本制度」という。）の手續を実施してきた。
- ・一方、高度成長期以降に整備した施設等更新期を迎える施設の増加が見込まれるなど、本制度を取り巻く状況の変化が生じている。
- ・本制度の手續は、事業者の一定の負担を伴うことから、施設の更新について対象を明確化するなど、より適切で分かりやすい手續とする必要がある。
- ・よって、本制度の手續の明確化を中心に、条例の改正を含めた本制度の見直しについて、東京都環境影響評価審議会に諮問する。

2 本制度の見直しの視点

(1) 本制度の手續の明確化等

条例の対象事業について、施設の更新があった場合に条例の対象となることを明確化する規定を設けるなど、手續の明確化を中心に、必要な見直しを図る。

(2) その他

そのほか、本制度の運用上の課題について、見直しを図る。

第 19 期東京都環境影響評価審議会委員名簿

区分	氏名	現職	
会長	柳 憲一郎	明治大学教授	
第一部会	部会長	町田 信夫	日本大学名誉教授
	委員	奥 真美	首都大学東京教授
	委員	※小林 一哉	中央大学教授
	委員	小堀 洋美	東京都市大学特別教授
	委員	齋藤 利晃	日本大学教授
	委員	谷川 昇	国立研究開発法人国立環境研究所客員研究員
	委員	堤 仁美	昭和女子大学専任講師
	委員	※寺島 孝一	元江戸遺跡研究会世話人代表
	委員	平林 由希子	芝浦工業大学教授
	委員	森川 多津子	一般財団法人日本自動車研究所主任研究員
	委員	義江 龍一郎	東京工芸大学学長
第二部会	部会長	平手 小太郎	東京大学教授
	委員	池邊 このみ	千葉大学大学院教授
	委員	池本 久利	一般財団法人日本環境衛生センター 課長
	委員	日下 博幸	筑波大学教授
	委員	坂本 慎一	東京大学生産技術研究所教授
	委員	佐々木 裕子	国立研究開発法人国立環境研究所客員研究員
	委員	西川 豊宏	工学院大学教授
	委員	藤倉 まなみ	桜美林大学教授
	委員	宮越 昭暢	国立研究開発法人産業技術総合研究所主任研究員

注 1) 委員任期は、平成 29 年 5 月 20 日から平成 31 年 5 月 19 日まで

注 2) ※は両部会を併任する。

注 3) 会長は、両部会に所属する。

環境影響評価制度検討特別部会 委員名簿

区分	氏名	現職	専門分野
部会長	柳 憲一郎	明治大学教授	法律・行政
委員	奥 真美	首都大学東京教授	法律・行政
委員	平手 小太郎	東京大学教授	日影、風環境、景観
部会長代理	藤倉 まなみ	桜美林大学教授	法律・行政
委員	町田 信夫	日本大学名誉教授	騒音・振動

審議の経過

区 分	年 月 日	主な審議事項
審議会（総会）	平成 29 年 12 月 21 日	（諮問第 480 号） 東京都環境影響評価制度の見直しについて諮問
特別部会 （平成 29 年度第 1 回）	平成 30 年 1 月 24 日	「東京都環境影響評価制度の見直し」に係る各検討事項について
特別部会 （平成 29 年度第 2 回）	平成 30 年 2 月 16 日	「東京都環境影響評価制度の見直し」に係る各検討事項について
特別部会 （平成 29 年度第 3 回）	平成 30 年 3 月 23 日	東京都環境影響評価制度の見直しの中間のまとめ（案）について
特別部会 （平成 30 年度第 1 回）	平成 30 年 4 月 23 日	東京都環境影響評価制度の見直しの中間のまとめ（案）について
特別部会 （平成 30 年度第 2 回）	平成 30 年 6 月 25 日	東京都環境影響評価制度の見直しの中間のまとめ（案）について
審議会（総会）	平成 30 年 6 月 26 日	東京都環境影響評価制度の見直し 中間のまとめ（予定）

資料 2

平成 30 年 6 月 26 日

東京都環境影響評価審議会
会長 柳 憲一郎 殿

東京都環境影響評価審議会
第一部会長 町田 信夫

「多摩都市計画道路 3・1・6 号南多摩尾根幹線（多摩市聖ヶ丘五丁目～
南野三丁目間）建設事業」特例環境配慮書について

このことについて、当部会において調査、審議した結果は別紙のとおりです。

「多摩都市計画道路 3・1・6 号南多摩尾根幹線（多摩市聖ヶ丘五丁目～南野三丁目間）建設事業」に係る特例環境配慮書について

第1 審議経過

本審議会では、平成 29 年 11 月 28 日に「多摩都市計画道路 3・1・6 号南多摩尾根幹線（多摩市聖ヶ丘五丁目～南野三丁目間）建設事業」特例環境配慮書（以下「配慮書」という。）について諮問されて以降、部会における審議を重ね、配慮書において示された複数の対象計画案について提出された都民の意見及び関係地域市長の意見等を勘案して、その内容について検討した。

その審議経過は付表のとおりである。

第2 審議結果

本事業の配慮書における調査、予測及び評価は、おおむね「東京都環境影響評価技術指針」に従って行われ、その記載内容は事業段階環境影響評価における環境影響評価書案に相当するものと認められる。

なお、環境影響評価書を作成するに当たっては、関係住民が一層理解しやすいものとなるよう努めるとともに、次に指摘する事項について留意すべきである。

【騒音・振動】

自動車の走行に伴う道路交通騒音レベルは、評価の指標とした環境基準を満足しているが、計画道路の一部には車道と沿道の住宅地の高低差が一律でない区間が存在し、本事業による影響が懸念されていることから、環境保全のための措置を徹底すること。

【景観】

計画道路において新たに擁壁が出現することについて、周辺住民や関係市長による景観への影響の懸念が示されていることから、擁壁の設計に当たっては周辺環境に配慮するよう検討すること。

【廃棄物】

環境保全のための措置として、撤去路盤やガードレール等の鉄製金属について、再利用又は再資源化に努めるとしているが、その排出量等が示されていない。しかし、本事業は、延長約5.5kmの道路の改築をするものであり、相当量が発生すると考えられることから、排出量、再利用・再資源化量等についても予測・評価すること。

【審議経過】

区 分	年 月 日	審 議 事 項
審議会	平成 29 年 11 月 28 日	・ 配慮書について諮問
審議会	平成 30 年 1 月 30 日	・ 現地視察
部 会	平成 30 年 2 月 26 日	・ 審議（事業者からの説明）
部 会	平成 30 年 3 月 23 日	・ 項目別審議 地形・地質、廃棄物
部 会	平成 30 年 4 月 23 日	・ 項目別審議 日影、電波障害
部 会	平成 30 年 5 月 21 日	・ 項目別審議 生物・生態系、史跡・文化財、 自然との触れ合い活動の場
公聴会	平成 30 年 5 月 29 日	・ 都民の意見を聴く会を開催
部 会	平成 30 年 6 月 21 日	・ 項目別審議 大気汚染、騒音・振動、景観 ・ 総括審議
審議会	平成 30 年 6 月 26 日	・ 答申

平成 30 年 6 月 26 日

東京都環境影響評価審議会
会長 柳 憲一郎 殿

東京都環境影響評価審議会
第二部会長 平手 小太郎

「京浜急行電鉄湘南線（泉岳寺駅～新馬場駅間）連続立体交差事業」
環境影響評価書案について

このことについて、当部会において調査、審議した結果は別紙のとおりです。

「京浜急行電鉄湘南線（泉岳寺駅～新馬場駅間）連続立体交差事業」に係る環境影響評価書案について

第1 審議経過

本審議会では、平成29年12月21日に「京浜急行電鉄湘南線（泉岳寺駅～新馬場駅間）連続立体交差事業」環境影響評価書案（以下「評価書案」という。）について諮問されて以降、部会における審議を重ね、都民及び関係地域区長の意見等を勘案して、その内容について検討した。

その審議経過は付表のとおりである。

第2 審議結果

本事業の評価書案における調査、予測及び評価は、おおむね「東京都環境影響評価技術指針」に従って行われたものであると認められる。

なお、環境影響評価書を作成するに当たっては、関係住民が一層理解しやすいものとなるよう努めるとともに、次に指摘する事項について留意すべきである。

【騒音・振動】

- 1 本事業は工事が長期間にわたる上、予測値が勧告基準と同程度の工種があること、また、夜間にも工事が実施されることから、周辺住民に対して工事内容を十分に説明するとともに、環境保全のための措置を徹底し、騒音・振動の影響を低減するよう努めること。
- 2 工事の完了後における鉄道騒音について、高さ方向の予測を2地点で実施しているが、本事業区間については高架に近接して中高層の住宅等が存在し、かつ、急曲線区間があることから、完了後の鉄道騒音の実態を適切に把握し、必要に応じてより一層の環境保全のための措置を検討すること。

【審議経過】

区 分	年 月 日	審 議 事 項
審議会	平成 29 年 12 月 21 日	・評価書案について諮問
審議会	平成 30 年 2 月 23 日	・現地視察
部 会	平成 30 年 5 月 16 日	・項目別審議 電波障害、廃棄物
公聴会	平成 30 年 6 月 5 日	・都民の意見を聴く会を開催
部 会	平成 30 年 6 月 25 日	・項目別審議 騒音・振動、日影、景観 ・総括審議
審議会	平成 30 年 6 月 26 日	・答申

平成 30 年 6 月 26 日

東京都環境影響評価審議会
会長 柳 憲一郎 殿

東京都環境影響評価審議会
第一部会長 町田 信夫

「(仮称) 新ごみ焼却施設整備事業」環境影響評価調査計画書について

このことについて、当部会において調査、審議した結果は別紙のとおりです。

「（仮称）新ごみ焼却施設整備事業」に係る環境影響評価 調査計画書について

第1 審議経過

本審議会では、平成30年4月13日に「（仮称）新ごみ焼却施設整備事業」に係る環境影響評価調査計画書（以下「調査計画書」という。）について諮問されて以降、部会における審議を行い、周知地域市長の意見等を勘案して、その内容について検討した。

その審議経過は付表のとおりである。

第2 審議結果

【大気汚染】

大気質の予測に当たっては、高層気象の調査及び風洞実験を実施することから、そのデータの活用方法についてわかりやすく記載すること。

【騒音・振動】

工事の施行中における建設機械の稼働に伴う騒音・振動の予測において、予測の対象時点を建設機械の稼働に伴う影響が最大となる時点としているが、本事業では既存施設の解体工事が行われることから、解体工事及び建設工事に伴う影響が最大となる時点について予測・評価すること。

第3 その他

環境影響評価の項目及び調査等の手法を選定するに当たっては、条例第47条第1項の規定に基づき、調査計画書に係る周知地域市長の意見及び今後の事業計画の具体化を踏まえて検討すること。

なお、選定した環境影響評価の項目のほか、事業計画の具体化に伴い、新たに調査等が必要となる環境影響評価の項目が生じた場合には、環境影響評価書案において対応すること。

【審議経過】

区 分	年 月 日	審 議 事 項
審議会	平成30年4月13日	・調査計画書について諮問
部 会	平成30年6月21日	・環境影響評価の項目選定及び項目別審議 （大気汚染、悪臭、騒音・振動、土壌汚染、 地盤、水循環、生物・生態系、日影、電波 障害、景観、自然との触れ合い活動の場、 廃棄物、温室効果ガス） ・総括審議
審議会	平成30年6月26日	・答申

受 理 報 告

区 分	対 象 事 業 名 称	受 理 年 月 日
1 事 後 調 査 報 告 書	・ 渋谷駅街区開発事業（工事の施行中その1） ・ （仮称）有楽町一丁目計画建設事業（工事の施行中）	（別紙のとおり）
2 変 更 届	・ 大日本印刷市谷工場整備事業	（別紙のとおり）
3 完 了 届	・ （仮称）有楽町一丁目計画建設事業	平成30年6月5日

事後調査報告書

事 項	内 容		
事 業 名	渋谷駅街区開発事業		
番号・答申日・受理日	1-300-1	H25. 3. 28	H30. 6. 15
事 業 の 種 類	高層建築物の新築		
規 模	計 画 地： 渋谷区渋谷二丁目、道玄坂一丁目・二丁目 敷 地 面 積： 約 15,300 m ² 建 築 面 積： 約 15,000 m ² 延 床 面 積： 約 268,000 m ² 最 高 高 さ： 東棟：約 230m、西棟：約 76m、中央棟：約 61m 駐 車 台 数： 約 643 台 主 要 用 途： 事務所、店舗、駐車場等 工 事 予 定 期 間： 平成 26 年度～平成 39 (2027) 年度 供 用 開 始 予 定： 東 棟：平成 31 (2019) 年度 西棟・中央棟：平成 39 (2027) 年度		
事後調査の区分	工事の施行中その1		
調査項目・事項	大気汚染、騒音・振動		
調査結果の内容	<p>1 大気汚染</p> <p>(1) 建設機械の稼働に伴う二酸化窒素及び浮遊粒子状物質の大気中の濃度 二酸化窒素の期間（7日間）平均値（0.037～0.045ppm）は、予測結果（0.051595ppm）を下回った。日平均値の最高値（0.045～0.055ppm）は、予測結果（日平均値の年間98%値0.079ppm）を下回り、参考比較した環境基準（0.04から0.06ppmまでのゾーン内又はそれ以下）を満足していた。 浮遊粒子状物質の期間（7日間）平均値（0.031mg/m³）は、予測結果（0.035943mg/m³）を下回った。日平均値の最高値（0.043mg/m³）は、予測結果（日平均値の2%除外値0.077mg/m³）を下回り、参考比較した環境基準（0.10mg/m³以下）を満足していた。</p> <p>2 騒音・振動</p> <p>(1) 建設機械の稼働に伴う建設作業騒音 騒音レベル（L_{A5}）の事後調査結果（73～78dB）は、予測結果（78dB）と同値又は下回った。また、環境確保条例に基づく勧告基準（80dB以下）を下回った。</p> <p>(2) 建設機械の稼働に伴う建設作業振動 振動レベル（L₁₀）の事後調査結果（38～46dB）は、予測結果（65dB）を下回った。また、環境確保条例に基づく勧告基準（70 dB以下）を下回った。</p>		
苦情の有無	無		

事後調査報告書

事 項	内 容		
事業名	(仮称) 有楽町一丁目計画建設事業		
番号・答申日・受理日	2-302-1	H25. 6. 27	H30. 6. 5
事業の種類	高層建築物の新築		
規模	計 画 地： 東京都千代田区有楽町一丁目 1 番 2 号 敷 地 面 積： 約 10,700 m ² 建 築 面 積： 約 9,000 m ² 延 床 面 積： 約 189,800 m ² 最 高 高 さ： 約 192m 主 要 用 途： 業務、商業、駐車場等 工 事 予 定 期 間： 平成 25 年度～平成 29 年度 供 用 開 始： 平成 29 年度		
事後調査の区分	工事の施行中		
調査項目・事項	大気汚染、騒音・振動、その他（土壌汚染）		
調査結果の内容	<p>1 大気汚染</p> <p>(1) 建設機械の稼働に伴う二酸化窒素及び浮遊粒子状物質の大気中の濃度 二酸化窒素の期間（7日間）平均値（0.023～0.035ppm）は、予測結果（0.05024ppm）を下回った。日平均値の最高値（0.032～0.053ppm）は、予測結果（日平均値の年間 98%値 0.077ppm）を下回り、参考比較した環境基準（0.04 から 0.06ppm までのゾーン内又はそれ以下）を満足していた。 浮遊粒子状物質の期間（7日間）平均値（0.035mg/m³）は、予測結果（0.03763mg/m³）を下回った。日平均値の最高値（0.052mg/m³）は、予測結果（日平均値の 2%除外値 0.080mg/m³）を下回り、参考比較した環境基準（0.10mg/m³以下）を満足していた。</p> <p>(2) 工事中車両の走行に伴う二酸化窒素及び浮遊粒子状物質の大気中の濃度 二酸化窒素の期間（7日間）平均値（0.017～0.025ppm）は、全ての地点で予測結果（0.02752～0.03222ppm）を下回った。日平均値の最高値（0.024～0.038ppm）は、予測結果（日平均値の年間 98%値 0.048～0.054ppm）を下回り、参考比較した環境基準を満足していた。</p> <p>2 騒音・振動</p> <p>(1) 建設機械の稼働に伴う建設作業騒音・振動 騒音レベル（L_{A5}）の事後調査結果（66～82dB）は、一部の時間帯で予測結果（76dB）及び環境確保条例に基づく勧告基準（80dB 以下）を上回った。予測を上回った理由としては、工事中車両の車路を避けるため、敷地境界付近においてクローラクレーン等が稼働していたことが考えられる。 振動レベル（L₁₀）の事後調査結果（32～44dB）は、予測結果（70dB）を下回り、環境確保条例に基づく勧告基準（70dB 以下）を下回った。</p> <p>(2) 工事中車両の走行に伴う道路交通騒音・振動 騒音レベル（L_{Aeq}）の事後調査結果（昼間：65～69dB、夜間：60～67dB）は、2地点で予測結果（昼間：63～69dB、夜間：59～68dB）を上回り、3地点で環境基準（55～70dB 以下）を上回った。予測を上回った理由としては、計画地に隣接する道路であり、本事業による建設作業騒音等の影響により、周辺の騒音レベルが上昇していたことが考えられる。 振動レベル（L₁₀）の事後調査結果（昼間 27～42dB、夜間 25～43dB）は、2地点で予測結果（昼間 31～44dB、夜間 28～40dB）を上回り、全ての地点で環境確保条例に基づく規制基準（55～65dB 以下）を下回った。 予測時よりも工事中車両の走行台数は下回っているため、工事中車両による影響は小さいと考えられる。</p> <p>3 その他（土壌汚染） 環境確保条例第 117 条に基づく地歴調査及び土壌汚染状況調査を行った結果、汚染土壌は確認されなかった。</p>		
苦情の有無	騒音・振動に関する苦情が 4 件あった。近隣施設の営業時間中に解体作業を禁止すること、騒音・振動の発生が懸念される場合、事前に連絡するなどの対応を行った。		

変 更 届

事 項	内 容											
事 業 名	大日本印刷市谷工場整備事業											
番号・答申日・受理日	1-267-2	H16. 7. 16	H30. 6. 15									
事 業 の 種 類	高層建築物の新築、工場の設置											
規 模	計 画 地 : 新宿区市谷加賀町 1-1-1 他 敷 地 面 積 : 約 54,900 m ² 建 築 面 積 : 約 36,000 m ² 延 床 面 積 : 約 237,600 m ² 建 物 高 さ : 約 125m 施 設 用 途 : 事務所、印刷工場、地域開放型施設、駐車場等 駐 車 台 数 : 約 600 台 工事予定期間 : [Ⅲ期] 平成 28(2016)年 8 月～平成 38(2026)年 3 月 供用開始予定 : 平成 38(2026)年 3 月											
変更内容の概略	<p>1 変更理由 建設物価の上昇や建設会社の労務不足等の社会の情勢変化の影響を受け、当初の事業計画の見直しが必要となった。この結果、Ⅲ期工事の工事予定期間と供用開始予定を変更する。これに伴い、施工計画を変更する。</p> <p>2 変更内容</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin: 10px 0;"> <thead> <tr> <th style="width: 25%;">項目</th> <th style="width: 45%;">変更後</th> <th style="width: 30%;">変更前</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">工事予定期間</td> <td>平成 28(2016)年 8 月 ～平成 38(2026)年 3 月 (うち、平成 32(2020)年 7 月～平成 36(2024)年 5 月までは休止)</td> <td style="text-align: center;">平成 28(2016)年 3 月 ～平成 30(2018)年 12 月</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">供用開始予定</td> <td>平成 38(2026)年 3 月</td> <td style="text-align: center;">平成 30(2018)年 12 月</td> </tr> </tbody> </table>			項目	変更後	変更前	工事予定期間	平成 28(2016)年 8 月 ～平成 38(2026)年 3 月 (うち、平成 32(2020)年 7 月～平成 36(2024)年 5 月までは休止)	平成 28(2016)年 3 月 ～平成 30(2018)年 12 月	供用開始予定	平成 38(2026)年 3 月	平成 30(2018)年 12 月
項目	変更後	変更前										
工事予定期間	平成 28(2016)年 8 月 ～平成 38(2026)年 3 月 (うち、平成 32(2020)年 7 月～平成 36(2024)年 5 月までは休止)	平成 28(2016)年 3 月 ～平成 30(2018)年 12 月										
供用開始予定	平成 38(2026)年 3 月	平成 30(2018)年 12 月										
環境影響評価項目の再評価(見直し)結果	工事工程の変更に伴い施工計画が変更になるが、建設機械及び工事用車両のピーク時期における台数は同数又は減少することから、予測・評価の見直しは行わない。											